

## 中国の原子力関係情報

——中国核能行業協会【中国原子力産業協会、CNEA】ホームページより抜粋——  
(中文仮訳概要)

### 2009/3/1 安徽省の「原子力発電」の夢 第12期5ヵ年計画入りを狙う

2月25日、中国核集团公司は、安徽省合肥で、安徽吉陽核電有限公司の披露式を行い、また、安徽皖能股份有限公司との間で中核安徽吉陽核電プロジェクト投資協議書に署名した。これは、中核安徽吉陽核電プロジェクトの重要な一步となった。

新エネルギーとして原子力発電は将来の優先エネルギーである。内陸の安徽省では、原子力発電分野で吉陽原子力発電所と蕪湖原子力発電所の2大プロジェクトが、第12期5ヵ年計画入りを争っている。

安徽省は、全国でも重要なエネルギー産出地のひとつで、石炭が豊富。総量は908億トン。同省の95%以上電力供給は、石炭に依存している。おもに火力発電。ところが同省で毎年消費する7,000万トンの石炭のうち発電用は1/4に満たないため、発電用に石炭を購入することもある。

関係者の分析によれば、原子力発電建設により、サイトに巨大な経済が引き寄せられる。秦山原子力発電所の立地する浙江省海塩県は、発電所立地前は貧困県であったが、いまでは100強県のひとつになった。このことも、各地域がこぞって原子力発電所を呼び込もうとする原因のひとつである。

計画書によれば、吉陽原子力発電所は、100万kW、4基。1期は100万kW、PWR、2基。2010年1月、2010年9月に着工、2015年1月、2015年9月商業運転開始。蕪湖原子力発電所は、100万kW、PWR、4基。

(情報源：江淮晨报)

### 2009/2/27 国家エネルギー局：中国のエネルギー利用効率は33%

2月26日、国家エネルギー局エネルギー節約・科学技術装備司の関係者によれば、わが国のエネルギー利用効率は約33%。先進国に比べ約10%低い。

### 2009/2/26 国際原子力機関（IAEA）事務局長の後任人事、なお意見一致せず

(2月24日)IAEAエルバラダイ事務局長の任期は今年11月30日満了するが、後継者はだれか、IAEA内でなお意見の一致がみられない。

IAEA関係者が24日記者に明らかにしたところでは、候補者は2人。日本の天野之弥 大使と南アの外交官ミンティ氏。西側は天野氏を支持、途上国はミンティ支持の傾向。目下天野氏支持票が多少先行しているものの、理事会で必要な2/3の支持票は得られていない。

今後、3月に理事会構成員35名が協議、遅くとも6月までに総会に向けて人選提案、9月総会で決定。

(情報源：新華ネット)

### 2009/2/25 「中国原子力産業2008年10大ニュース」選定へ

中国原産協会は、中国の原子力産業の2008年改革発展の成果を宣伝し、原子

力産業の社会的影響を拡大するため、「中国原子力産業 2008 年度 10 大ニュース」選定している。

中国原産協会会員企業、企業の各部署の推薦をもとに、協会事務局が 200 以上のニュースについて情報をまとめ専門家グループにて選定している。

選定した 10 大ニュースは以下のとおり。

- ① 国家原子力主管部門の大幅調整  
国家エネルギー局（国家發展改革委員会が管理）と国防科技工業局（産業技術情報部（省）が管轄）の新設
- ② 運転中の 11 基の原子力発電所の安全・安定運転
- ③ 新規着工 8 基。わが国原子力産業の迅速発展の新段階
- ④ 第 3 世代原子炉国産化プロジェクトの主体工程準備
- ⑤ 高温ガス炉のモデルプロジェクト実施段階へ
- ⑥ わが国のウラン資源保障に重大な進展  
北方地区で埋蔵量万トン級の大型ウラン鉱床が数ヶ所発見。積極的な海外進出を行い、カザフスタン、ニジェールなどと共同プロジェクトに署名。
- ⑦ 原子力発電用主要設備の開発、製造のスタート
- ⑧ 四川大地震後直ちに生産再開にあたった多くの労働者の心意気と勇気
- ⑨ 中国原産協会会員の北京オリンピックでの貢献  
中国原子能科学研究院の開発した NQR 爆発物検査システム、放射性物質検査システムはオリンピックで利用され安全なオリンピックに貢献した。
- ⑩ 中国原産協会は、2008 年年会と持続可能な発展フォーラムを成功

#### 2009/2/24 長山は三門原子力発電所第 2 サイト候補地のひとつ

2 月 12 日、三門核電有限公司等の関係者は、三門原子力発電所第 2 サイトー長山候補地の実地調査を行った。

(情報源：三門ニュースネット)

#### 2009/2/23 「当協会と日本原産協会、協力覚書（議事録）に署名」

2 月 19 日、中国原産協会の張華祝理事長は、北京で、日本原産協会の服部理事長および日立製作所の来賓と面談した。面談は友好的な雰囲気の中で行われた。まず、双方の主賓がそれぞれの協会の組織、業務などの基本情報を紹介した。続いて、双方は、両協会の協力関係の構築、強化について忌憚ない意見交換を行い、協力の覚書（議事録）締結について意見が一致し、面談の最後に、簡単な署名式を行い、張理事長と服部理事長はそれぞれの協会を代表して議事録に署名した。

双方は、協力覚書（議事録）の締結は、両協会の協力発展にとりよいスタートとなり、両協会の協力関係は一層健全に発展するだろう、両国の原子力平和利用事業の進歩と繁栄にプラスに働くだろうと信じている。

日立製作所の幹部が会談に参加し、日立の中国における電力事業の発展の状況を紹介し、将来の協力について協会指導部と交流、意見交換した。

中国原産協会からは、馬 秘書長、冯 副秘書長、国際協力部の関係者が会議、署名式に参加した。（国際協力部）

2009/2/22 中核集団、秦山Ⅱ期の圧力容器据付に成功

3号機圧力容器は、中国核動力研究設計院が設計し、韓国斗山重工業が製造。2月16日、据付を完了した。

(情報源：中国核工業集团公司)

(以上)